

地方独立行政法人 北松中央病院
第5期中期目標期間の業務実績に関する見込評価結果
【報告書】

令和元年8月
佐世保市

目 次

I 小項目評価	
1 住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	．．． P1
(1)判断理由	．．． P1
(2)評価結果	．．． P5
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき 措置	．．． P6
(1)判断理由	．．． P6
(2)評価結果	．．． P6
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	．．． P7
(1)判断理由	．．． P7
(2)評価結果	．．． P8
II 大項目評価	．．． P9
III 全体評価	．．． P10
IV まとめ	．．． P11

1 住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 判断理由

① 地域で担うべき医療の提供（地域の実情に応じた医療の提供）【C評価】

深刻な医師不足の中、計画通り医師を確保し、北松中央病院の使命である佐世保北部地域に必要とされる入院・外来機能を維持することができた。第5期中期目標の期間における患者数については、入院、外来ともに目標値には達しない見込みであるが、診療単価については入院、外来ともに目標を超える見込みである。なお病床利用率については入院患者が減少していることなどから目標値に届かない見込みであり、平均在院日数についても同様に目標に届いていない状態である。成果指標では、患者数など目標に達していない項目もあるが、収益にはそう重大な影響を及ぼしていないことや、佐世保北部地域における入院、外来機能の安定提供が継続して行われる見込みであることなどから、概ね計画通りとしてC評価とする。

② 地域で担うべき医療の提供（高度・専門医療）【C評価】

中期目標に沿って、佐世保北部地域における他の医療機関では担うことが困難な高度・専門医療が提供できている。特に平成30年度は、CT装置を更新するなど地域に必要とされている高度医療機器の充実が図られた。指標となっている各装置の利用件数や検査件数等については、H29～30年度にかけて減少傾向がみられるが、その理由が法人自体の体制等によるものではないことから、地域の患者や周辺の医療環境の動向、状況等について分析する必要がある。なお、引き続き医師や医療スタッフに対する研修等は実施され、一定レベルの機能は保たれていることなどから、概ね計画通り実施されているとしてC評価とする。

③ 地域で担うべき医療の提供（救急医療）【C評価】

佐世保北部地域等における初期・二次救急医療機関として、第5期中期目標期間においては年間平均2,400件を超える救急患者を受け入れている。また、救急患者対応の院内完結率については、95.0%を超える水準を維持しており、北松中央病院で診断や治療困難な患者は、迅速に二次・三次医療機関へ繋げている。指標における中期計画策定当初の目標値と見込みとの比較については、院内診療の完結率を除き、目標を下回る見込みとなっているが、法人の救急患者の受け入れ体制に大きな変化がないことなどから、総合的に判断すると概ね計画通りであるとしてC評価とする。

④ 地域で担うべき医療の提供（生活習慣病【予防】への対応）【C評価】

第5期中期目標期間を通して、糖尿病患者や循環器疾患の患者に対する日常生活の指導や治療に努め、生活習慣病の予防に向けた取り組みに努めている。特に、外来フロアでは毎年8回の関連イベントが開催される（見込含む）など、生活習慣病の予防に関して患者、家族への啓発活動を行っている。本項目の指標となっている健康相談等への住民参加者数は、一部教室が開けず目標に届かない部分もあるが、活動全般を見れば概ね計画通りであることからC評価とする。

⑤ 地域で担うべき医療の提供（感染症医療・災害対策）【C評価】

計画期間中は佐世保北部地域等における感染症診療の中核的役割を果たすべく、全職員を対象とした院内研修や新型インフルエンザの初動対応訓練を行うなど、感染症に対する職員の対応能力の向上に努めている。院内の体制としては「院内感染対策委員会」が中心となり、院内外の感染症に関する対応を行っている。また、災害医療訓練については、期間中に訓練回数が目標に達していない年もあるが、災害医療研修を含めて全体的にはほぼ計画に準じた参加（取り組み）状況であることから、概ね計画通りとしてC評価とする。

⑥ 地域で担うべき医療の提供（在宅への復帰支援） 【C評価】

本項目については、その体制充実のため、これまでの理学療法士、作業療法士に加え中期目標期間中（H29年度）に、新たに言語聴覚士1名を確保しリハビリテーションの体制充実を図り、これにより取得単位数も増加している。また、こうしたスタッフと他の医療従事者との合同カンファレンスを積極的に行うなど患者の在宅への早期復帰支援等に努めている。本項目の指標となっているリハビリ部門の各数値について、診療報酬の制度変更などもあり、リハビリテーションの実施単位については、項目により目標値に対してプラスもマイナスも見受けられるが、全体的（合算すれば）には概ね目標に準じた実績となっている。一方で、摂食機能療法回数については対象患者が減少したことなどにより、目標値に届いていない。なお、こうしたリハビリの対応に臨む体制（医療スタッフ）については、最終年度に理学療法士1名が減少する見込みとなっているが、現状の患者数などからはスタッフの不足感はなく、必要とされる医療の提供はできることから、全体的にはほぼ目標に準じたリハビリの実施が可能と見て、概ね計画通りとしてC評価とする。

⑦ 地域で担うべき医療の提供（介護保険サービス） 【C評価】

介護保険サービスについては、中期目標期間中、訪問看護師の減少や入れ替り、近隣への訪問看護サービス施設の進出などの影響もあり、訪問看護件数などが思うほど伸びなかったものの、訪問件数としては、第5期中期計画策定当初設定した目標値の4,500件には近づく見込みである。また、平成30年度には北松中央病院が主体となり、地域の病院や施設に従事する医師を含めた多職種による交流会を開催するなど、地域における医療と介護の連携のため新たな取り組みを開始し、その連携に努めた。また、期間中は居宅介護支援事業の利用者に顧客満足度のアンケートを実施するなど、提供される介護保険サービスの向上にも努めている。各種指標についても最終的には中期計画設定当初の目標値に届く見込みであることから概ね計画通りとしてC評価とする。なお、自己評価にもあるように、訪問看護職員の増減が収益に影響を及ぼしているようなので、今後も引き続き訪問看護職員の確保と育成に努める必要がある。

⑧ 医療水準の向上（医療スタッフの人材確保） 【C評価】

第5期中期目標期間中における医療スタッフの確保状況については、看護師数以外に大きな変化はなく、安定した雇用状況であることがうかがえる。看護師（准看護師含む）数については、毎年度計画時点で必要数の見直しをしているが、毎年度130名前後が確保される見通しであり、期間最終の平成31年度は概ね計画通りになるものと思われる。このほか、期間を通して医師事務作業補助者を継続して9名雇用し、医師の事務作業の負担軽減を図っているほか、修学資金の貸し付けや院内保育所の運営、さらには「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けるなど、医療スタッフの確保に努めていることなどから、概ね計画通りとしてC評価とする。

⑨ 医療水準の向上（医療スタッフの専門性及び医療技術の向上） 【C評価】

第5期中期目標期間中は、各職種において必要とされる研修会や学会等に参加し、それぞれの専門知識の修得と技術の向上に努めた。しかしながら、平成30年度には、専門資格の主要指標としても掲げていた糖尿病療養指導士、ケアマネジャーおよび内視鏡認定技師は、いずれも減少しており、目標値にも達していない状況にある。これは資格所有者が退職したことや関係する職員が資格更新を行わなかったなどの理由によるものである。以上のとおり、指標において一時的に目標値に達していない部分はあるものの、職員の知識や技術習得に対するバックアップなど全体的な取り組みは概ね計画通り行われているとしてC評価とする。なお、特に専門資格取得者の目標値の設定に当たっては、今後、明確なビジョンをもって目標設定を行う必要がある。

⑩ 医療水準の向上（医療人材の育成） 【C評価】

本項目においては特に指標は設定されていないが、第5期中期目標期間中は毎年度平均70名を超える研修医や学生を受け入れ（H29年度71名、H30年度76名）しており、平成31年度も同規模の学生受け入れを行う見込みであり、目標とする医療系学生に対する臨床研修の場としての役割を果たしている。今後とも、臨床研修の場としての役割はもちろん、研修医や薬剤師、臨床工学技士といった不足しがちな職種の人員確保のためにも、そうした職種を希望する学生を積極的に受け入れて、地域の医療人材の育成に貢献していただきたい。本項目も全体的には概ね計画どおりとしC評価とする。

⑪ 医療水準の向上（臨床研究の推進・医療の質の向上） 【C評価】

臨床研究については、第5期中期目標策定時点で、期間最終(H31年度)における臨床研究の実施目標件数を4件と設定していたが、他所との共同による研究であることなどから、現実的に実施可能な回数に見直しされた。よって、計画期間中は年間通して3件(最終年度の見込み値も3)という実績であり、中期計画策定当初に設定した目標値の4件に1件足りていないが、上記理由も踏まえ、概ね計画通りとしてC評価とする。

⑫ 患者サービスの向上（待ち時間の改善） 【C評価】

待ち時間対策は、医療機関における患者サービスの大きな課題のひとつであり北松中央病院においても様々な待ち時間対策に取り組んでいる。第5期中期目標期間中にも、待ち時間に関する患者満足度を目標の34.0%に近づけるべく様々な取り組みを行っているが、達成できるかどうかは不透明な状況である。また、予約時間から会計終了までの時間については、予約時間枠や枠内の人数の見直しなどに取り組んだ結果、以前からは時間の短縮につながっており、目標値もクリアする見込みとなっている。以上のように、外来待ち時間に関する満足度には大きな改善はみられていないが、目標期間中は、待ち時間短縮の改善が進んだことや、引き続き待ち時間を利用した患者への健康指導などに努めていることなどから、全体的に見て概ね計画通りとしてC評価とする。

⑬ 患者サービスの向上（院内環境の快適性向上） 【C評価】

本項目には指標がないが、実施された患者満足度アンケート中の施設環境に関する項目を参考に評価した。その結果、中期目標期間中の状況については、5点満点でH29年度もH30年度も同率の4.22点という結果であった。この間、院内における環境整備として、各病棟のトイレの改修や内壁の修繕および洗濯機の更新などが行われるなど目標とする患者や来院者に対して、より快適な環境の提供にも努めていることなどから、概ね計画通り進んでいるとしてC評価とする。

⑭ 患者サービスの向上（患者満足度の向上・インフォームドコンセントの徹底） 【C評価】

本項目では、指標にはないが、患者満足度調査の結果も参考にしながら、患者サービスの向上に関する進捗状況について評価を行っている。その調査では、不満、やや不満とした項目のうち、常に上位にあるのが「待ち時間」と「駐車場の利便性」で、北松中央病院においてはこの二つの問題を解消することが患者サービスの中でも大きな課題となっている。患者の待ち時間対策については、前段の項目の通りであるが、駐車場対策については平成27年度からシャトルバスを運行しているほか、第5期計画期間中(平成29年度)には、駐車スペースを拡張(13台分)するなど対策を講じている。しかしながら、患者満足度調査ではその効果が見られていないことなどから、抜本的な改善策を講じる必要がある。インフォームドコンセントの徹底については、昨年同様、患者説明用のアプリケーションを利用するなど、引き続き計画に沿った運用が図られている。本項目においては、患者満足度調査では理想の結果は得られていないものの、患者サービス向上のため調査を実施し、少しずつではあるがその改善に取り組まれていることなどから、概ね計画通りとしてC評価とする。

⑮ 患者サービスの向上（職員の接遇向上） 【C評価】

患者満足度調査の結果、中期目標期間中(実績が出ている2年間)の職員の接遇(患者対応)は、5点満点で平均4.22点(H29年度4.27点、H30年度4.17点)であった。期間を通して、職員の接遇に関する集合研修の開催やネット研修の推奨を行ったほか、職員の接遇に対する意見や苦情に対しては、院内で情報共有し再発防止に努めている。本項目においても、概ね計画どおり進んでいると判断しC評価とする。

⑯ 患者サービスの向上（医療安全対策の実施） 【C評価】

医療安全対策については、医療安全管理委員会を中心として、各関係委員会や部会などが活発に活動し啓蒙を繰り返し行うことで安全な医療が確保されている。また、本項目の指標となる医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、いずれの委員会も目標通りの開催回数で、定期的実施される見込みである。さらに、死亡症例検討部会で抽出された課題等については、職員にフィードバックされ、院内の医療安全の向上につながっている。本項目においても概ね計画通り進んでいるものとしてC評価とする。

⑰ 地域医療機関等との連携（地域医療機関との連携） 【C評価】

第5期中期目標期間中における地域医療機関との連携については、特に指標等は設定されていないが、紹介率と逆紹介率を参考値として用いている。その結果、紹介率は、H29年度36.3% → H30年度33.1%。逆紹介率は、H29年度58.1% → H30年度57.8%であった。この間、紹介率、逆紹介率ともに下降しているものの、H27年度からの大きな動きをみると、紹介率は増加傾向（ただしH30年度は減少）、逆紹介率は減少傾向にある。この理由については、初診患者数（算出根拠に使用）の増減も影響することから一概には言えないものの、紹介率については地域医療機関との連携により増加傾向にある一方で、北松中央病院内で治療が完結する患者が増えたことなどにより逆紹介率は下降傾向にあるのではないかとと思われる。なお、期間中は地域の医師等向けに各種勉強会を開催したほか、平成30年度からは新たに地域の医療機関や施設の多職種と交流会を開催し、事例検討や情報交換を行うなど地域医療における新たな連携強化にも努めている。本項目においては、紹介率、逆紹介率といった参考値に増減はあるものの、計画に掲げる取り組みには努めていることなどからC評価とする。なお、今後とも、紹介率、逆紹介率の向上に向けては、地域の医療機関との連携を強化していく必要がある。

⑱ 地域医療機関等との連携（地域医療への貢献） 【C評価】

第5期中期目標期間を通して、地元の消防局と連携した救急講習会を開催するなど、地域医療への貢献に努めたほか、糖尿病や生活習慣病対策に関する普及啓発活動に努めている。このほか地域の病院や施設向けに褥瘡予防対策用のDVDを作成し、褥瘡のある患者紹介の際に転院先となる医療機関にこれを配布した。本項目においては、地域医療の質を高めるための取り組みや地域連携において必要な役割を果たしており、概ね計画通りに進んでいることからC評価とする。

⑲ 市の施策推進における役割（市の保健・医療・福祉行政との連携） 【C評価】

第5期中期目標期間中の平成29年度に、松浦市内の一医療機関が健診業務を取りやめたことから、その影響などで企業健診の受診者数が増加している。また、がん検診、人間ドックについては微増傾向が見られる。本項目においては、計画に準じた検診業務に取り組むなど予防医療の実施に努めていることから概ね計画通りとしてC評価とした。

(2) 評価結果

①医療の提供（地域の実情に応じた医療の提供）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
②医療の提供（高度・専門医療）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
③医療の提供（救急医療）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
④医療の提供（生活習慣病【予防】への対応）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑤医療の提供（感染症医療・災害対策）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑥医療の提供（在宅への復帰支援）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑦医療の提供（介護保険サービス）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑧医療水準の向上（医療スタッフの人材確保）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑨医療水準の向上（医療スタッフの専門性及び医療技術の向上）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑩医療水準の向上（医療人材の育成）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑪医療水準の向上（臨床研究の推進・医療の質の向上）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑫患者サービスの向上（待ち時間の改善）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑬患者サービスの向上（院内環境の快適性向上）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑭患者サービスの向上（患者満足度の向上・インフォームドコンセントの徹底）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑮患者サービスの向上（職員の接遇向上）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑯患者サービスの向上（医療安全対策の実施）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑰地域医療機関等との連携（地域医療機関との連携）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑱地域医療機関等との連携（地域医療への貢献）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑲市の施策推進における役割（市の保健・医療・福祉行政との連携）	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 判断理由

① 効率的な業務運営 【C評価】

第5期中期目標期間中を通して、指標である「病院運営戦略会議」は計画通り開催された。中期計画や年度計画、規程の整備に関する事項など理事会での決定事項については、この会議を通して職員全員に周知徹底されている。効率的な業務運営体制の確立への取り組みは、概ね計画どおり進む見込みであるとしてC評価とする。

② 事務部門の専門性の向上 【C評価】

中期目標期間を通して、医事課内の業務については、それぞれの担当以外でも対応できるよう対策が取られ、患者と直接触れ合う部署を中心に、職員の専門性の維持向上に努めている。また、医師事務作業補助者は9名を維持し、医師の負担軽減に取り組んだ。以上のことから、概ね計画どおりに進む見込みであるとしてC評価とする。

③ 職員満足度の向上 【C評価】

第5期中期目標期間中、看護師の離職率については、平均して年間6%程度であり、全国と同規模病院における看護師の離職率12%程度((公)日本看護協会調査)から見てもそう高いものとは言えない。なお、全体の離職率が平成30年度に一時的に悪化した。これは雇用期間が満了となったことや家庭の事情などにより離職した職員がたまたま多かったことによるものであり、平成31年度は標準化する見込みである。

院内保育所の運営による働きやすい職場環境の整備や「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受け、ストレスの少ない職場づくりに努めていることなどから、本項目においてもC評価とする。今後とも職場環境の整備などに、より工夫を凝らしていただき、できるだけ離職が出ないような職場づくりに努めていただきたい。

(2) 評価結果

①効率的な業務運営	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
②事務部門の専門性の向上	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
③職員満足度の向上	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 判断理由

■収益の確保と費用の節減に関する数値

区 分	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	平成31年度 見込値	中期計画 目標値	目標値差
経常収支比率(%)	101.3	100.8	100.4	100.8	▲0.4
営業収支比率(%)	100.7	100.4	100.1	100.3	▲0.2
純利益(円)	30,105,520	19,826,270	10,008,000	18,799,000	▲8,791,000
純利益率(%)	1.2	0.8	0.4	0.7	▲0.3
経常利益(円)	32,515,511	19,796,277	11,009,000	19,800,000	▲8,791,000
経常利益率(%)	1.3	0.8	0.4	0.8	▲0.4
営業利益(円)	17,393,483	10,766,698	1,562,000	8,058,000	▲6,496,000
営業利益率(%)	0.7	0.4	0.1	0.3	▲0.2
材料費比率(%)	20.9	20.1	21.2	21.6	▲0.4
医薬品費比率(%)	14.0	13.7	14.7	14.7	0.0
給与費比率(%)	54.5	54.9	53.6	53.5	0.1
金利負担率(%)	0.7	0.7	0.7	0.6	0.1

※中期計画目標値は中期計画策定当初の計画最終（H31）年度の目標値

■財務基盤の安全性の数値

区 分	安全性の 理想数値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	前年度差	理想値対 平成30年度
自己資本比率(%)	50 以上	58.0	57.8	▲0.2	7.8
固定長期適合率(%)	100 以下	75.6	74.2	▲1.4	▲25.8
流動比率(%)	200 以上	369.7	430.5	60.8	230.5

【「安全性の理想数値」自己資本比率、固定長期適合率、流動比率の用語説明】

○自己資本比率 (自己資本×100/負債・資本合計) %

自己資本比率とは、自己資本が総資本に占める割合を示す指標。

自己資本比率が一般的に50%を超えているとかなり優良であるといわれている。

○固定長期適合率 (固定資産×100/固定負債+自己資本) %

固定長期適合率とは、固定資産に投資した資金が長期資金でどれだけまかなわれているかを見るための指標。

固定長期適合率が100%以下となっていることが理想で、できれば50~80%程度であるとなお良いとされている。

○流動比率 (流動資産合計×100/流動負債合計) %

流動比率とは、流動負債（短期債務）の支払能力を示す指標。

流動比率が高ければ高いほど企業の支払能力が高く、200%以上を超えていれば安全であるといわれている。

① 経営基盤の確立 【C評価】

北松中央病院においては、法人化した平成17年度以降、継続して黒字経営が続いているが、第5期中期目標期間全体でも純利益額が総額で約6千万円見込まれ、この3年間はいずれの年度も黒字が見込まれている。利益の規模は小さいものの、法人化以降、安定して黒字経営が継続されていることから、その効果もあって財務内容の健全性をはかる各指標（自己資本比率等）についても、財務状況が健全であることが見て取れる。以上のことから全体的に概ね計画通り進捗しているものとしてC評価とする。

② 収益の確保と費用の節減（収益の確保） 【C評価】

第5期中期目標期間中の収支計画における3年間の収益総額は76億5,078万円であったが、これに対する決算見込み額は75億1,802万円と若干（1億3,276万円）目標に届かず、減少する見込みであるものの、ほぼ計画に沿った収益が上がっているといえる。また、期間中における各年度の入院収益、外来収益ともに大きな増減は見られず、比較的安定した状態であった。なお、この3年間は継続して黒字となる状態であることから、経常収支、営業収支の各比率も100%を超え、当初の目標に近い結果となっている。こうした状況を総合的に勘案し、概ね計画通り進む見込みであるとしてC評価とする。

③ 収益の確保と費用の節減（費用の節減） 【C評価】

費用節減について、材料費比率（医薬品費含む）については20%程度で推移しており、期間中を通して計画を達成する見込みであり、その削減に努めた効果が出ている。一方で給与費比率については計画値を超過する傾向が見られたが、そう大きな悪化は見られない。後発医薬品採用率については、最終的には当初（第5期中期計画策定時）定めた計画値をクリアできる見込みとなっている。その他の費用に関しては、個々の雑貨、事務用品などについて新規納入先の開拓や同一性能の安価製品への移行を行うなどでその削減に努めているなど、中期目標期間を通して、全体的には総じて概ね計画通りとしてC評価とする。

④ 予算、収支計画及び資金計画 【C評価】

予算については、収入、支出ともに計画（予算）額を下回って執行されている。収入では医業収益が計画より少なかったこともあり、診療に用いられる医薬品費などの材料費の不用額も高額となっている。なお、当初の予算規模（総額）からすると、実績見込み額は収入、支出ともに2%未満の誤差（いずれも減少）であり、ほぼ計画に準じた決算になることが予想される。収支計画については、第5期中期目標期間中の純利益を8,593万円と見込み計上していたが、実績見込みでは予想より2,599万円少ない、5,994万円となっている。この主な原因は、医業収益が計画より1億2,253万円減収となる一方で、支出側の材料費と給与費の計で1億3,946万円も減少したが、経費および減価償却費の合計が見込みより2,819万円増加することなどにより減益となるものである。なお、期間中は毎年度黒字が見込まれ（H29年度、H30年度は黒字決算で、H31年度も黒字の見込み）ることから、純利益の規模は小さいものの平成17年度以降連続となる黒字経営が計画されている。資金計画については第5期中期目標期間中、1億774万円が増加した。（7億6,916万円→8億7,690万円）こちらは、計画時点で1億1,510万円の増加を見込んでいたことからほぼ計画に近い資金の増加となった。以上のとおり、予算、収支計画、資金計画ともに、計画から目立って大きな変更等はなく、第5期中期目標期間も順調に黒字経営を継続できる見込みであることから、概ね計画通りの進捗が見込まれるためC評価とする。

(2) 評価結果

①経営基盤の確立	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
②収益の確保と費用の節減(収益の確保)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
③収益の確保と費用の節減(費用の節減)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
④予算、収支計画及び資金計画	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

II 大項目評価

1 住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

大項目評価の結果 C

(目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	0	19	0	0	19項目
点数	0	0	57	0	0	57点

【平均点】 57点 ÷ 19項目 = 3.00 ≒ 3点 (評価区分 C)

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

大項目評価の結果 C

(目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	0	3	0	0	3項目
点数	0	0	9	0	0	9点

【平均点】 9点 ÷ 3項目 = 3.00 = 3点 (評価区分 C)

3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

大項目の評価結果 C

(目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	0	4	0	0	4項目
点数	0	0	12	0	0	12点

【平均点】 12点 ÷ 4項目 = 3.00 = 3点 (評価区分 C)

1 住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

Ⅲ 全体評価

全体評価の結果 C（目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる）

大項目区分	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
1 住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (0)	19 (57)	0 (0)	0 (0)	19 (57)
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (0)	3 (9)	0 (0)	0 (0)	3 (9)
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (0)	4 (12)	0 (0)	0 (0)	4 (12)
合 計	0 (0)	0 (0)	26 (78)	0 (0)	0 (0)	26 (78)

※ 項目数(点数)

全体評価の結果

【平均点】 78点 ÷ 26項目 = 3.00点 ≒ 3点（評価区分 C）

IV まとめ

地方独立行政法人北松中央病院は、平成 17 年 4 月 1 日に、旧北松浦郡江迎町によって、病院事業では日本で初めての地方独立行政法人として設置された。平成 22 年 3 月 31 日の佐世保市・江迎町・鹿町町との市町合併により、佐世保市が設立団体としての地位を承継したため、平成 21 事業年度の実績から佐世保市の地方独立行政法人として評価を行っている。なお、令和元年度（平成 31 年度）は、北松中央病院にとって第 5 期中期目標（H29 年度～H31 年度）の 2 年目となることから、その計画期間の見込評価を行うものである。

小項目の評価については、記述している通りであるが、その結果、大項目区分の「住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」は、すべて C 評価となった。これにより、全体評価についても C 評価となり、北松中央病院の第 5 期中期目標期間の業績見込評価は中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画通り進んでいるという評価結果であり、適正かつ効率的な業務運営に努めていることが確認された。

なお、評価に当たり特徴的であった内容は次の①から④のとおり。

- ① 佐世保県北二次医療圏内でも特に顕著な医師不足が見られる圏内北部地域において、内科医 8 名と外科医 1 名の常勤医師を引き続き確保し、地域住民への安定した医療の提供に努めた。また、救急患者の受け入れ態勢を維持し、救急患者の院内治療の完結率についても計画期間中の 3 年間平均 95% 超が見込まれている。
- ② 介護保険サービスへの取り組みについては、地域住民が介護や治療を安心して受けられる体制を維持するため、平成 30 年度からの新たな取り組みとして、地域の病院、施設に勤務する多職種連携による交流会を開催するなど地域との連携強化に努めている。
- ③ 救急医療、感染症医療および高度医療の提供など政策医療に取り組んだ。特に、救急医療については、年間平均 2,400 件を超える救急患者を受け入れる見込みとなっている。また、高度医療については平成 30 年度に CT 装置を更新し、佐世保北部地域において高度医療の提供に努めている。第 5 期中期計画においては、3 年間で総額 3 億 4,039 万円の運営負担金を受け、こうした政策医療に取り組む見込みである。
- ④ 第 5 期中期目標期間の 3 年間で合計 5,994 万円の純利益が生じる見込みであり、平成 17 年度の地方独立行政法人化以降、連続した黒字経営が続くこととなる。また、財務基盤の安全性を示す数値についても引き続き良好な状況が見込まれている。

佐世保市または佐世保県北医療圏においては、医療人材の偏在や不足など社会情勢の変化から将来にわたる地域医療体制の維持・確保に懸念が高まっているため、圏域内の基幹病院を中心に、それぞれの役割について見直しが必要となることも考えられる。

以上